

オンライン電子ふせんツール「APISNOTE（エイピスノート）」 を活用したワークショップの体験

北岡 和義¹⁾、玉有 朋子²⁾、宮越 浩子³⁾、堀井 秀之³⁾

¹⁾徳島大学教養教育院イノベーション教育分野

²⁾徳島大学学長企画室

³⁾一般社団法人日本社会イノベーションセンター

1. はじめに

近年、大学教育においても、ふせんなどを用いたグループワークにより課題の整理や発見、解決法の検討を実施する事例が増加しているが、必要物品の準備、管理やワーク自体の評価、ワーク実績のアーカイブ化など多人数での実施には多くの課題が多く存在する。

今回、東京大学発イノベーション教育プログラムである「i.school」が開発、運用し、その主催するワークショップで豊富な使用実績を有するオンライン電子ふせんツール「APISNOTE(エイピスノート)」について紹介し、同ツールを活用した体験ワークショップを実施する。

2. 「APISNOTE」とは？

APISNOTEは東京大学 i.school（2017年に東京大学から独立し、現在は一般社団法人日本社会イノベーションセンター（JSIC）が運営する教育プログラムとして継続）によって開発されたオンライン電子ふせんツール(1)である(<https://www.apisnote.com/>)。ブラウザベースのツールであり、Google chrome、Firefox、Safariなどが対応している。

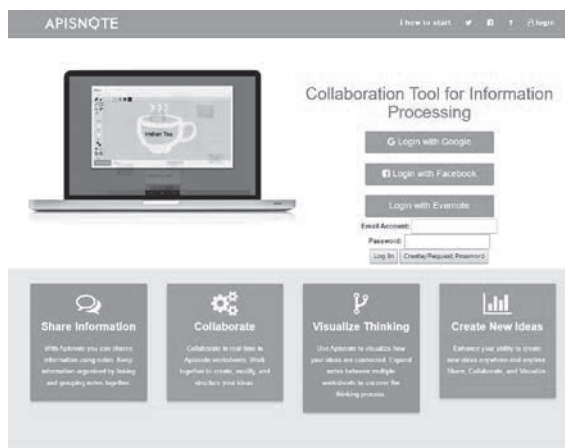


図1. 「APISNOTE」ログイン画面

その主な特徴としては以下が挙げられる。

- ①教育目的および個人使用であれば無料でアカウント開設および利用できる。
- ②アカウント開設により、「ノートブック」の作成と各アカウント間での共有ができる。
- ③ノートブック内にふせんを貼るスペースである「ワークシート」を複数作成できる。
- ④ワークシート内に様々な色のふせんを配置し、それぞれの間で紐づけができる。
- ⑤ワークシート内のふせんの配置や関連付けをログとして記録し、その過程を再生することができる。

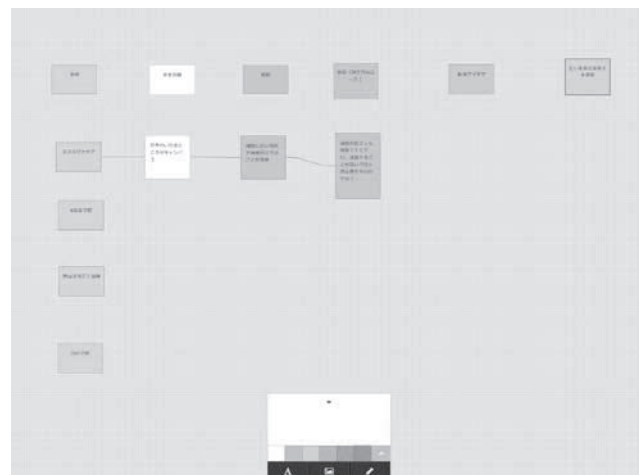


図2. 「APISNOTE」のワークシート画面

JSICでは、主宰するイノベーションを創出するためのワークショップである「イノベーションワークショップ」において、その設計、実施、お

よびワークショップで創出されたアイデアの評価について、APISNOTE を積極的に活用することで成果を上げている。

3. 「APISNOTE」を用いたワークショップ実施と設計

今回は JSIC で実施されているイノベーションワークショップの 1 手法を基に設計したワークショップを体験いただくが、それ以外にも、一般的なデザイン思考のワークショップや、その他単発のブレインストーミングや調査事例の情報整理や共有など、様々な情報共有およびアイデア創出の場で活用が期待される。

APISNOTE をワークショップ運営に導入することで、ふせんやホワイトボードなど物理的な物品の準備が不要となることや、多人数参加によるワークショップ運営時での各チームの進捗管理が容易になること、ワークショップ終了後の事後評価やワークショップの時空間的なアーカイブ化が可能となることなど、様々なメリットがある。また、ウェブ会議システムと併用することで遠隔でのワークショップ環境が実現でき、実際に JSIC では、ウェブ会議サービス「ZOOM」を併用し、主催するイノベーションワークショップのオンライン参加や、オンラインでのワークショップの企画、運営を行っている。



図3. JSICによる「APISNOTE」を利用した遠隔ワークショップ（徳島大学コミュニケーションハブにて）

ワークショップの設計の際には、ワークショップの円滑な運用管理のために、個々のワークショッププログラム全体を「ノートブック」で作成・管理すること、各チームとワークショップの進捗ごとに「ワークシート」を準備し、そのワークシート内にワークショップに必要なフレームワークを事前に作成し、管理することが望ましい。

また、その高い自由度のため、物理的な物品を利用した一般的なワークショップと基本的に同じ構造を再現できるが、ワークショップを設計、実施するファシリテーターには、「APISNOTE の機能をどう活用すれば効果的なワークが実施できるか？」を検討するための経験と創造性が試される。

4. 「APISNOTE」の課題と今後の展望

APISNOTE の利用に関する現在の課題としては、多人数でのワークショップ使用時での PC、タブレットおよび通信回線の確保や、多人数同時使用の際の情報負荷による通信処理速度の遅延可能性、複数のアカウント管理にメールアドレスが個別に必要な点、さらに「APISNOTE」を効果的に活用するためのワークショップのフレームワークの検討等が挙げられるが、それらを踏まえても、イノベーションワークショップに代表されるアイデア創出ワークショップをより大規模、広範囲に実施するうえでのメリットは大きい。

今回のワークショップによってより多くの方々が APISNOTE を体験し、その利活用が進むことを期待したい。

5. 参考文献

- (1) Nakajima A, Bawiec M, Nakayama K, Horii H, The Development of APISNOTE a Digital Sticky Note System or Information Structuring. Case study into the innovation workshops at i.school The University of Tokyo. 14th International Conference for Asia Digital Art and Design.